

「養老町少年の主張」
最優秀賞作品

今の自分にできること

髪が長く優しさ

高田中学校三年

高木 愛実(あみ)

テレビに映し出されている子には、髪の毛もまゆ毛もなかった…。

「なんであの子は髪の毛がないの？」小学5年の私は、初めて見る光景に、その画面から目を離すことが出来なくなっていました。その子は、小児がんをわずらっていました。「ガン」の治療をしており髪の毛が抜けてしまっていたのです。

人は、自分とは違う容姿・価値観・文化に接したとき、偏見をもってしまいがちです。あの時の私は、病気のことを知らず、髪を失った人の心の痛みにも気づくことができませんでした。

私はこのテレビ番組を通して、「ヘアドネーション」という言葉を初めて知りました。「ヘアドネーション」とは、髪の毛の寄付のことでした。何年も伸ばした髪をカットし、その長い髪で、ウィッグを作る活動を意味します。それをガンや白血病の治療、先天性の無

毛症、不慮の事故、その他の原因の分からない脱毛症などで、髪を失ってしまった子どもたちに寄付する活動が紹介されていました。中でも一番目を引いた内容は、自分よりも年下の男の子が、「髪で苦しむ同年代の子どもの為に何か自分にもできることはないか」と、自分の意志で行動に移している姿でした。私より

小さい子なのに、あんなに誇らしげに誰かのために生きている…。私は何も知らなかった自分を恥ずかしく思うというよりも、自分以外の誰かのために生きている年下の少年がとてもまぶしく、大人に見えました。

私にとって髪は、時間がたてば自然に伸びていくものでした。当たり前のものでした。ファッションとして、おしゃれをしようとして伸ばしていたものでもなく、伸びたから切る。ただそれだけのものではなかった。捨てられていく私の髪には、何の意味もありません。しかし、その髪に意味をもたせれば、誰かの笑顔につながる。もう私の心の中で答えは出ていました。「私もやってみよう…」とその日から、私も髪を伸ばし始めました。伸ばしたら伸ばした分だけ、自

分の髪の毛が、誰かの役に立てると思うとうれしかったのと同時に、私の何気ない毎日に大きな意味が生まれるという充実感でいっぱいでした。「髪を伸ばすだけのこと

…。最初はとても簡単なことだと思っていました。道端のりはともかく長いものでした。伸ばし始めて知ることになったのですが、ウィッグを作るのに必要な髪の毛の長さが、切り口から毛先まで、31センチ以上だったのです。そしてその30センチの髪を送ったとしてもショートヘアのウィッグにしかありません。40センチでポブ。50センチでやっとロングのウィッグが作られます。カットした後の自分の髪型を考えると、さらに20センチメートルくらいは伸ばす必要があります。髪の毛が長いために暑く、髪を洗うのも大変で、私は、「もうやめたい。髪を切ろう…」と、あきらめかけてしまったことがありました。しかし、そんな時には私より数倍つらい思いをして、治療に耐えているあの番組の子と、自分の意思で「誰かのために」と行動に移していた少年のことを思い出しました。そして私はもう一度、「ヘアドネーション」について、インターネットで調べ

てみました。そこで私は、約三十人分の髪で一人分のウィッグになることを知りました。私はこんなことであきらめかけている場合ではないと思いました。

「脱毛」による精神的苦痛は大きく、病気と同じくらい辛いものです。髪がないことで、周りの人からジロジロ見られ、心ない言葉をかけられたりする方もいるという現実…。人の目が気になり、対人恐怖症になってしまった方もいます。しかし私たちは、無意識に自分と違うものに偏見を持ってしまっています。イジメや、戦争など大小はあるかもしれませんが、それらは、どれも他を受け入れないことから起きているのではないのでしょうか。外見や性格、文化も十人十色で、みな違って当然です。私たちは、そのことを分かっているはずなのに、忘れてしまったり、目をそむけてしまったりします。しかし、私たち一人一人の力は小さいけれど、小さい積み重ねで、だれもが笑って過ごしていける社会をつくれるはずです。ヘアドネーションは私にそのことを教えてくれました。私は髪をカットし、寄付しました。髪が短くなり、少し恥ずかしかったですが、美容師の方も、「す

ごく似合ってる。あなたの優しさが誰かの笑顔になるんだね。今回携われた私も幸せです。」と言ってくれました。

今、私はまた髪を伸ばしています。そして皆さんにヘアドネーションを通して伝えたい。一人一人の力は小さいけれど、小さいことの積み重ねで、だれもが笑って過ごしていける社会をつくれることを。

高木さんの主張から

いかででしたか。ここにはたくさんの「温かいつながり」がみとれます。

高木さんの心を動かした、年下の男の子とのつながり。幸せを共有した、美容師とのつながり。そして、もちろん、ヘアドネーションを通した思いやりのつながり。

高木さんのこの行動は、私たちに大切なことを教えてくれています。それは、相手の心の痛みに気づき、何とかしたいと願う心。誰かの笑顔のために、自分にできることをやってみようと思う心。その相手に寄り添おうとする心こそが、豊かなつながりを生む、すべての出発点だということです。皆さまは、何を感じられましたか？